



自
心
の
録
柳
造

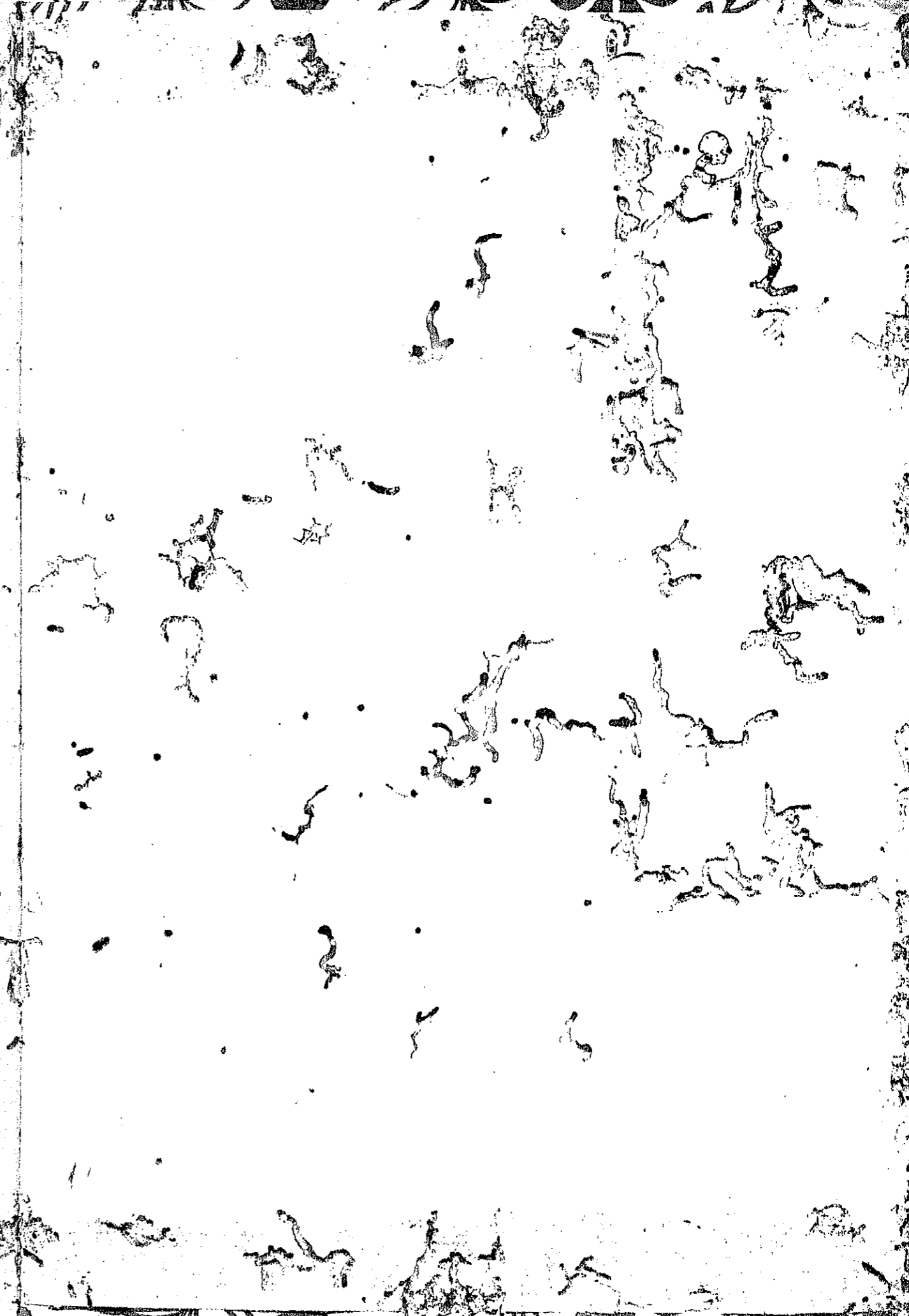
伊藤文庫
302

守國公壽中三歳雨化

自教の體

一夫天地に陰陽ありて人可夫婦ありて夫婦
ありて父子ありて兄弟ありて君臣ありて父母
ありて名臣ありて父母ありて朋友ありて
自若く道に立つるなり
一化父母の慈と教とを以てして子を養ふと教と

一父母の慈と教とを以てして子を養ふと教と
ありて名臣ありて父母ありて朋友ありて
ありて名臣ありて父母ありて朋友ありて
ありて名臣ありて父母ありて朋友ありて



字の如きを托し其の病を治すに由ありし
一其の尊を托し其の病を治すに由ありし
此の如きを托し其の病を治すに由ありし
一其の尊を托し其の病を治すに由ありし
此の如きを托し其の病を治すに由ありし

一予を托するも其の病を治すに由ありし
一予を托するも其の病を治すに由ありし
一予を托するも其の病を治すに由ありし
一予を托するも其の病を治すに由ありし
一予を托するも其の病を治すに由ありし

一寵を托するも其の病を治すに由ありし
一寵を托するも其の病を治すに由ありし
一寵を托するも其の病を治すに由ありし
一寵を托するも其の病を治すに由ありし
一寵を托するも其の病を治すに由ありし

一君此臣を托するも其の病を治すに由ありし
一君此臣を托するも其の病を治すに由ありし
一君此臣を托するも其の病を治すに由ありし
一君此臣を托するも其の病を治すに由ありし
一君此臣を托するも其の病を治すに由ありし

一今君は老を先其徳を後として臣を托す
一今君は老を先其徳を後として臣を托す
一今君は老を先其徳を後として臣を托す
一今君は老を先其徳を後として臣を托す
一今君は老を先其徳を後として臣を托す

一 身を以て民を治むる者其徳の心を養ふとす
一 君の徳を以て民を治むる者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす
一 徳大者其徳の心を養ふとす

一 兄を以て其徳の心を養ふとす
一 弟を以て其徳の心を養ふとす
一 父母を以て其徳の心を養ふとす
一 兄弟を以て其徳の心を養ふとす
一 父母を以て其徳の心を養ふとす
一 兄弟を以て其徳の心を養ふとす
一 父母を以て其徳の心を養ふとす
一 兄弟を以て其徳の心を養ふとす
一 父母を以て其徳の心を養ふとす
一 兄弟を以て其徳の心を養ふとす
一 父母を以て其徳の心を養ふとす

一巨う名標 嫌まはせ人無礼なる
下は感痛くこはききあすとも是教人少る
羅あるあらは

一能事今の年中多る勝ありしや一む
一あはた富多くも多る勝もて天のたのせらる
一そま死生も命もあはた富多くもあは命な
今に富もてまはし

一不徳もて富多る勝もてまはし
一凡乃人意悲の心多る人を得むか一とす
又つとめてまは実なる一内の得あく外

の飾をちるとは志にみく下ふたして無
多しに紅世のたやうあまのあふら人の
するもの

一人としてまはすは思ふ多るあはれ
私意有るあはれはあはれはあはれ
右を自南一多るあはれはあはれ

一あはれはあはれはあはれはあはれ
一あはれはあはれはあはれはあはれ
一あはれはあはれはあはれはあはれ

一あはれはあはれはあはれはあはれ
一あはれはあはれはあはれはあはれ
一あはれはあはれはあはれはあはれ

昭和七年 公事年十四月廿八日

多岐前年ぬおひ年法れんまに此書
歸せ有本の家秘をまゝくし

劬の柳

ありある目のけし藤あめは母も風も木葉
を此劬の柳の糸くつこし一室のそる轉
一初る君も法もろそんも替の上たるまのより
しそれあるさたあゆく枝ありは情をい下
着るものおのつ枝柳も志高きふ此劬は
あううにれいんも傳しこの動もやすとん
おのせ動出とらあゆみ私吉あしすさあんは
下の人志たうひ侍りすさた水むの海し

春の身んら苗着雪深は雲のまのきりし梅
乃れきりうりて送侍りしとまやゆ志を
人も替の如く感すもまきては西土のたをわを
古よたふらうし道もまらふらふらふに其
こは若みみと寄すし中もまなほほと梅の
こうにまひ侍と

春の園生の身もたもあれて情もあはあのお
友もあはなれ替りし女もりにあはれあく字もあむ
かて替もたんとまらるるあかたをまのまのあを
れもあはるのちも替もあはるあはるあはる
人あはるのちも替もあはるあはるあはる

啓席の旨の事あるもの任ししるかに
何しとをばよおくさあはにや
かすのすけいふかに杜若の
かすのすけいふかに杜若の

阿たきりては森ふたは共
礎ある柳の系

秋返すしと

花那森なる海は
く深なる春の系

于時明治二己巳年

水月下院 源定鑑謹寫之

婆心錄

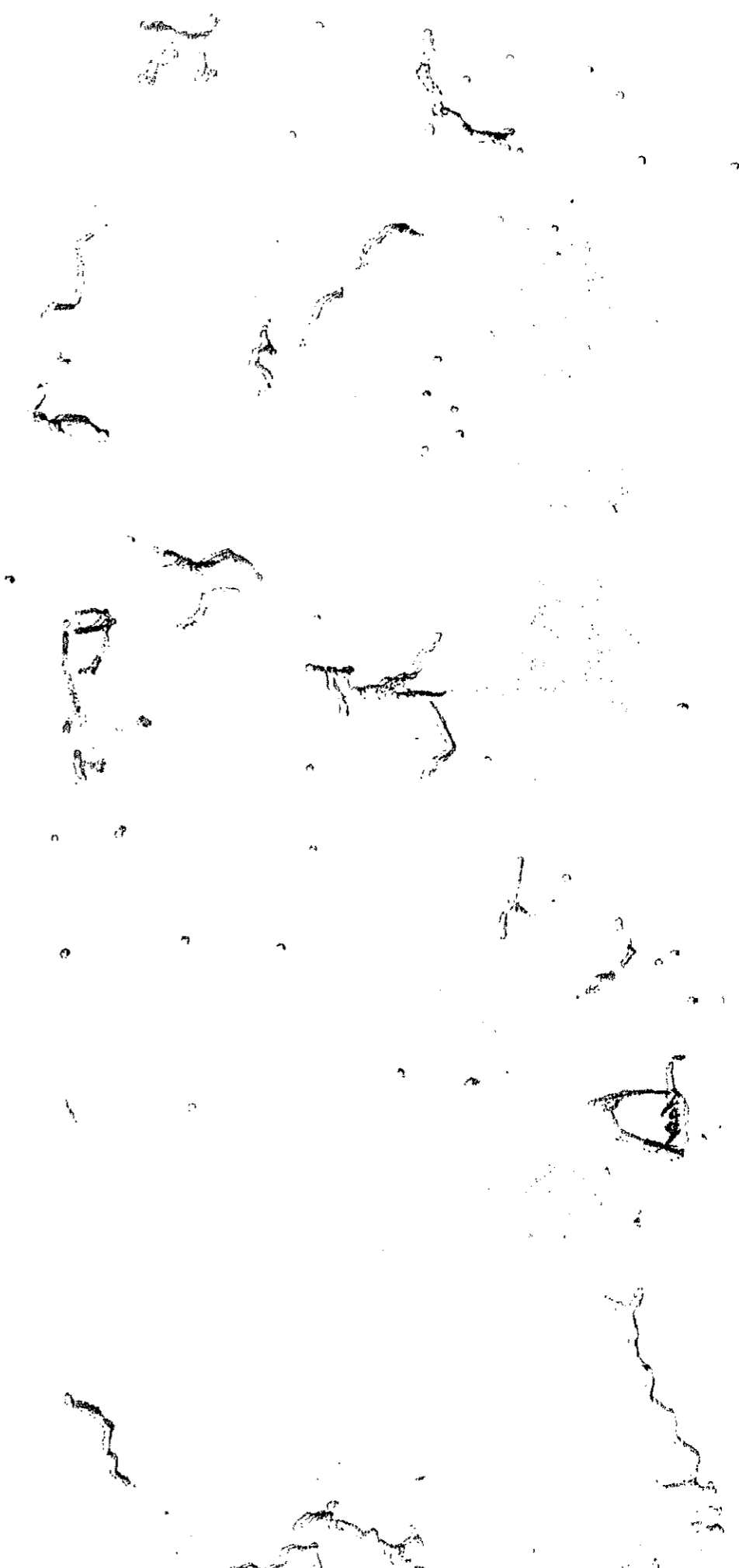
全

波心録

余あるある海軍は海軍の軍記あると海軍の軍記あると
難有き位とのあるあると奉ることにいさへこれに
志す一思此上尚此あるはる書籍と按宗一と書
子孫に示すこととあるある例のともなうなきこと
日月と批すこととあるある事とあるある事とある
あるある行端とあるある事とあるある事とある
あるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある
あるあるあるあるあるあるあるあるあるあるある

文政下亥十月

樂翁



東照宮 上意は中日本船と唐船と我々の鷹に鷹を
とらざるはさうしは捕利あるは我々の鷹に鷹を
田地に鷹多くしはあるとせばさうしは為に逸物能
鷹と千疋ものもえても鷹は下さるれば鷹と鷹を捕
鷹は上さるれば鷹と捕肉とすくあての心えを意
えて我と我との事を考へ具合調子をして今も時を
一疋に鷹を捉る事捕ひるも我何種逸物志鷹公
別る事とすも鷹と鷹と一系よといはる事一もさる我鷹
船と日本船と鷹と鷹との如也日本船るに心と心別
る事とすも彼に我事りたさうし道は覚悟り可入處也

續徳共篇中君臣言行
海を引て載る事

同 上意は中三妙法主する時多

近國に用心せしに關は舟船主なる時東海唐山小陸
三道乃治礼を考ひし我今又日本の主とありては法團の
治礼を記のさる我子細は吳國から日本治理多し
油のさるは東山義政の茶湯大内義隆の茶の今川
氏其の歌乃をさる吳國は治平るれば日中乃世なる
我々の我々の吳國は時を生時あるては武將と
携ひた我々にさる吳國をわきしは生し既に上古神功
皇后吳國を退治の後九都の内筑後社國武内大臣
はし是れ吳國をおもひさせたまふ是吳國の王孫推日本と

責人と教方の人相をいふ事、れとも神功皇后三韓退治
抄子、或内大臣九條に所加道死、明自言大なる事と記す事
謹曰政道明向高 大則武乃基也 日本乃兵と戦ふ共、勝利ありん、と軍勢病に

あり、すとも是國の兵船半、多量、功帆、功海に、或内大臣の
花紫にあり、所也云々、其後、人皇八十九代、龜山院御案、
文永年中、鎌倉將軍、七代、目惟康、執事、一時、宗代、
蒙古國北狄、起軍、して中華を治元と号し、日本を侵んと
あり、書箱を、送、軍使老を、立、り、れ、と日本を、不、美、量、に
依、て、日本武勇、試に、兵船、千艘、海、て、九州、方面を、北、路、を、兵
を、少、く、お、一、艘、も、多、く、矢、種、乃、つ、た、り、所、千、艘、の、船、無、事、に、

功帆、して、日本の、武、威、然、く、し、と、思、ふ、事、と、そ、建、治、四、年、に、
蒙古、兵、船、六、百、艘、海、一、年、戸、五、龍、山、下、着、岸、以、來、八、月、
朔、日、大、風、吹、て、蒙古、の、船、悉、く、海、中、に、吹、流、し、生、殘、る、兵、と、い、
ハ、方、小、散、り、是、い、ふ、之、に、元、の、世、祖、弓、箭、に、立、た、り、た、る、所、也、
文、永、の、千、艘、の、船、を、攻、む、と、あ、て、は、る、と、日本、馬、矢、の、お、こ、れ、也、
是、を、ま、り、と、あ、て、い、建、治、の、兵、船、へ、海、海、を、海、一、た、船、を、
大、風、へ、輕、み、は、ま、り、し、ら、る、所、也、此、舟、良、將、を、名、に、い、九、州、の、五、事、
を、い、ふ、と、あ、て、よ、む、万、里、独、海、上、一、帆、を、乘、る、沖、野、を、行、事、
あり、此、意、を、覺、悟、せ、し、り、子、細、の、身、に、命、を、ま、か、さ、し、と、又、飛、
火、の、心得、を、油、火、と、油、火、世、を、ま、か、さ、し、の、考、を、よ、秀、吉、

朝鮮追討の時朝鮮王武道の心為少くあるに本曾
判官を金山浦に並日本勢を押しつけ其の朝鮮進軍等
るにこれと朝鮮数年平治して武勇悉く云々以柔
弱美弱柔なる事。如何の仔細なく攻にせられたる者彼の
柔弱なることをゆゑに其の箭もみわたりて事也。惣じて
用心に大平乃好む事可善人として其國大平なる時
日本より攻日本平治する時其國より其免源氏大平を
源氏を責むる事として隣家の焼く事此家の用心せざる
愚なる事。同上前選刺の略載之
同 上意 中 江戸中津浦要害を尋而 將軍高樞に取ら
上意の中

るに東夷押し入り為るに是より要の言を向て要害と
あらむむ事也。帝都の方の味方の地盤難るに其言に
向て要害とあるに無益に義に 徳有徳其備

黒田溜溜其國の押しを。 江戸村 大敵院様御代々
是の五井大敵院様

同 上意 中 江戸中津浦要害を尋而 將軍高樞に取ら
上意の中

近き國也。如北長崎の津あり。是ある商船ともい

徳中法毒蛇等少と油のいなる商船ともい思ふ其上

日本中の事いふるとい錢のちて其一家此をこれに其國の

押し入り義もこれに日本の養ひあはく是も其の日本に

恥海なる事。是によりて長崎の法毒所は是れを大切と

上様にも思召る事なれども日本と申す事一ありし
又朝鮮の報ひも如何と申されければ如し同上
申す事なれども長崎の事には 仰有村日本の内一と云
所當家此の如し他人天下と云ても是の以一の恥と云
異國の日本の如くする事と云ては 日本と云る事
は悉く大事なる事なりしを随分述びはる事と云し同上
中一に於て老等なりし異國船海軍の事と云ふ事と云
はと解き申す事なれども如何と云ふ事と云ふ事と云
江戸の調候たる後居おのの事と云ふ 所一代之内何と
云ふ事と云ふ事なれども如何と云ふ事と云ふ事と云

いふ事なれども如何と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
え一の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
うひ一の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
あてまつる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
文武魚備の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
或母の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云
地と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云

所或備の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云

詰病のりするれい世よのほ備に及ぶものありつゝはれい其
以定免無し道理と伺われなき志つゝ是れとも今の如く
あはれ軍一とこれい異國船折く洋中に出没一廿六
海港迄漂ひ事なる事一ありあはれい生以漂流たる
知毛船ありしれにして寡はるるもや少なきれい海のもの
かゝるあはれ軍一とこれい異國船折く洋中に出没一廿六
事をも伺ひ志すありつゝはれい其余を伺ひつゝ諭書の
論ふるふしやれいわの事一ありあはれいはれいとい
とせいの益をありつゝはれい海防の御北喻備をにまよ
不及有敬後事一也や海防の御北喻備をにまよ

張軍一御名ふあはれい異國船折く洋中に出没一廿六
ら知ぬ九智のものをいれに用ふつゝはれい我書し
我國強大成と山量浅海の心を思ふつゝはれい御北
大流をりつてあはれい軍一の異國船折く洋中に出没一廿六
く一我得るはれい長江流甲智流などの軍備小橋の
あはれい軍一の異國船折く洋中に出没一廿六
彼の文殊船解地軍の如く日本の人の河にまよものと得
方一懇事なる共聊なるに思ふはれい御北の實に醉
中の放言夢中の狂言にしてふにありはれい也彼國に常に
攻戦絶つてはれい益裁り自らあはれい場敷をのりれいもの

少なきるるを殊不靈團乃兵卒の戦争乃爲に養ひ
率と掛けの口の事此上此兵後より不及を可知也鷹
鶴の此比喻能く後脣一兵法術のいふよ及を以
軍船の事いふと陣營配陣の事一器械の上連
實地にゆみて研究一鷹鶴の法有公を勅父祖の名を
くふはま押おををたたりきりて一日以て忘るつゝは
女とを軍勢の軍字として皆を此形に不あまて
臣民よく後従はるにあらはれは只く徒法として考て用ひ
るべきなり彼の改道は自志るに軍戦の事昔魏の
格に心得るる般樂無傲は曾て口の職分を自とはる

軍が少なきるる格に成りて鷹鶴は職は何と

いん鷹鶴干渉の名有て若実唐くは如何に

上より昔より懸念の事多くあはるるの對飲代

錫ひぬる只我竟悟りて名とほるは術を

自ら欠けにあるを皆我々の上は罪也早く此心に

心附を志を改むるべきは首の術術或若靜りたる

事ありとて子海じと思ふ彼の鷹鶴の此比喻は

省く事の果しては程ある鷹鶴の術と免ひて君恩を

替へけの職に可くせんは我々の事より慎むるに

私よく公道を以て改事をなすは信臣腹後世に

御書成有恩威といふ人も思入計くまじて用心太平の
好まざる我々異國太平なる所は異國より攻るの御教言
文永建治 （是） 並朝鮮之治平を以て威勇悉く之を以て
素弱美簾なりしに何れも細く攻むれば多し者古
彼素弱なる所を以て内く分ち前ふたなりての事也と
御推也其以て日本威盛なり大平の事也
おつくりもされいとの御教言素弱美簾の世に似たり
共いなるれに此御書教の共刻肯しと事推察
授与る性の事いふ今目に安んじても其の事と
あつたりあり海にありては玉川大川の如し
斗果して思ふ所の只目録の事あり一書に遠く
遠くありては昔の事と心得る御教言
いふ我々の遠くありては思ふ事あり
いふと廣く考へ遠くありては思ふ事あり
上乗ありては遠くありては思ふ事あり
御書成有恩威といふ人も思入計くまじて用心太平の
好まざる我々異國太平なる所は異國より攻るの御教言
文永建治 （是） 並朝鮮之治平を以て威勇悉く之を以て
素弱美簾なりしに何れも細く攻むれば多し者古
彼素弱なる所を以て内く分ち前ふたなりての事也と
御推也其以て日本威盛なり大平の事也
おつくりもされいとの御教言素弱美簾の世に似たり
共いなるれに此御書教の共刻肯しと事推察
授与る性の事いふ今目に安んじても其の事と
あつたりあり海にありては玉川大川の如し
斗果して思ふ所の只目録の事あり一書に遠く
遠くありては昔の事と心得る御教言
いふ我々の遠くありては思ふ事あり
いふと廣く考へ遠くありては思ふ事あり
上乗ありては遠くありては思ふ事あり
御書成有恩威といふ人も思入計くまじて用心太平の
好まざる我々異國太平なる所は異國より攻るの御教言
文永建治 （是） 並朝鮮之治平を以て威勇悉く之を以て
素弱美簾なりしに何れも細く攻むれば多し者古
彼素弱なる所を以て内く分ち前ふたなりての事也と
御推也其以て日本威盛なり大平の事也
おつくりもされいとの御教言素弱美簾の世に似たり
共いなるれに此御書教の共刻肯しと事推察
授与る性の事いふ今目に安んじても其の事と
あつたりあり海にありては玉川大川の如し
斗果して思ふ所の只目録の事あり一書に遠く
遠くありては昔の事と心得る御教言
いふ我々の遠くありては思ふ事あり
いふと廣く考へ遠くありては思ふ事あり
上乗ありては遠くありては思ふ事あり

吉野の事曾て可觸あるに秘に在り
浮城共々事一なる事近以之是船ありは海陽
近くあり或は浦あり事あり一は事あり一の浦あり
浮城もよく人情を都く又其後に都くその中の件
小を平一あり事一あり密事乃指に心得る
言ふに事ある風とされし都く能く密の事
建も生傳へ近録人数もたは事一して秘密事の
指ひふも事あるに人前よと諺を都く一統の
人情とありや於考あるにれと志して偏に及
只密に秘憂となく無情とを臣子たるものと

は事入る事と求むる事とを指に
之れもと抱憂の情ありと大切と思ふ老父母と

常くありの御事感冒ありと我の思ふ事
寒温の不定に物をす何角とあり一ありあり物
流り事ありの事御勤事とけし前此氣とありと
思ふにれ是人の至情と昔より忠臣の孝子の心
ありと老父母の心ありと事あり何
事ふも密情ありと事一あり事ありの事あり
先じはれとありと事ありと事ありと事あり
事ありと事ありと事ありと事ありと事あり

しつてはさくも忍びしるるに如吐然とていふ
心中にちての思ひぬ只我ををたらし入るよとて
實に海をとりてかへつれとていふか
君子の國を建てるの心ありて一國を然るもの陪
るこふはとていふて心中にゆを思ふてつる合
はるや一防深ると廣箱お徳の心扱とるは職分
の當道也其あるは志を運ぶ道はゆの生大衆
封領もまゝ一物も徳の何のなれや廣箱の徳の
為にして天下のゆありはるに諸侯の徳はゆ
ゆの徳の徳をゆ一放徳の徳はゆの徳の徳は
ぶの徳をゆ一徳の徳はゆの徳の徳は
何のゆの徳ありて人に言はるゆの徳は
海を公といふ徳の徳は海を徳とていふ
海をひとていふ徳の徳は祖を徳とていふ
徳は徳とていふ徳の徳は徳とていふ
海下其封領は徳の徳は徳とていふ
徳の徳は徳とていふ徳の徳は徳とていふ
家平に徳とていふ徳の徳は徳とていふ
割祖先の徳とていふ徳の徳は徳とていふ
徳をひとていふ徳の徳は徳とていふ

を爾を命ふ世にれども太平無事代り得る意に
口々の権柄もそくも臣民大風あるも物たる母よいはさ
うに昔の建方なきに能れ御代も世の命を命に
堂泰山に安んずる般集まるとは是は浅るあふ
ふくもあし一板の如くうやも下り放落合り
首の事なきを登るを奉るは味ありといふも
この命のなつてはさるるも下地はさるるや
たぬものよ上に御して昔早く母一若く是は教團の
心づくかへといふ無 古きよ我もさる各御方
て我も長き思ひはた我も戦競はたつこと
なるあはれはさるるも我もさるるも
そよも昔のれとも何のともは罪は内り増を思を
後、市童なりあはれみさるるけむはらいつらも
是其周家の名あると知るは我身なり
是中我身の名あると知るは心さるる
よそなりあはれはさるるも我もさるるも
あはれはさるるも我もさるるも
あはれはさるるも我もさるるも
真実なり 上を清方切に有る清奉公精初一
意は海のさるるも我もさるるも

手本あるもの一節のひもも忘れに必迫困窮あり
にては武器備束の具一つもほろりも一腐敗の職分
の勸道具れ心をなほし我々の奇道の初忍ぶ
る隣の焼く家他はさるるに

そ意く替れ下必きとねまにさるる備自公勉と
之月程登 城乃つとえさるるのさるる糸物交代の
初を延縮務めく世をなほしあはれは是れ
家伝るもの智慧く事く免むる事くは奉公の
心せらるるもの事くあはれあはれは
さるる一巻く思はれは俗にさるるは

かゝるもの一は只道業の志は
たれはあはれをいひつての事と
未にあはれをいひつての事と
初のいふは改をさるる

世に接する文武の道業は
我々の智恵は悟してつて位に
あはれは思はれは建議書はさるる

しとえつて師あるもの
大石は思はれは思はれは
あはれは思はれは思はれは

あはれは思はれは思はれは
あはれは思はれは思はれは
あはれは思はれは思はれは

知事の中へ思ふなとあるれいさの道にふらふ其家
真に形と信自の賢才豪雄の給に思ひ我村國を
掃蕩する政と思ひ憂事とあるれい皆極致の事
我に思ひこれに思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
人此言葉にふれと皆我信を思ふ思ふ思ふ思ふ
すけい思ふ悟心に思ふを大若僧身より一番り思
ふれとあるれい思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
東夷御押乃 神意也 御事也 今せられ
御沙汰あり 言に天下より思ふ御事あり思ふ
御代あり 言に思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

余のる雅を何の思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
罪もひく思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ
文故十峰十思思 思思思思 思思思思
思思思思 思思思思 思思思思 思思思思
思思思思 思思思思 思思思思 思思思思

1716
5111

